

八戸市中心市街地まちづくりビジョン 2023(案)に対するパブリックコメント一覧

1. 意見募集の実施期間 令和5年2月16日(木)～3月10日(金)
2. 寄せられた意見数 26件(提出者9名)
八戸市中心市街地活性化協議会における構成員からの意見 12件
(提出団体:7者)

3 (1) 意見内容(概要)及び市の考え方について

	意見内容(概要)	市の考え方
1	現在、裏通りは狭い2車線になっており、歩道も狭く車道との距離が近いことから安全性に欠けている。ビジョン案の「ひと中心のまち」の実現に向け、車も人も安心して過ごせるよう、ビジョンの中に裏通りの3車線化を含めてほしい。	現状の市道上組町線(裏通り)につきましても、歩車道11.5mの幅員ですが、3車線化する場合に最低限必要となる幅員は、車道9.25m、歩道は現状と同じ片側2.5mの14.25mであるため、3車線化は困難であると考えております。
2	現在の表通りは3車線の一方通行となっているが、交通量は多いわけでもなく道路幅を十分に活用できていない。新荒町からのS字型の道路を解消し、一方通行を廃止することでNTT側の国道からも中心街に入りやすくなり、狭い裏通りの通行量も混雑状態から適度な交通量に調整される。安全の確保されたまち、人が歩きやすいまちを実現させるためにもまちづくりビジョンの中に表通り一方通行廃止を含めてほしい。	現在、市では「八戸市中心街ストリートデザイン事業」において、国道340号三日町・十三日町区間を、スムーズな車両交通に配慮しつつ、歩行や滞在空間を充実させる「人中心の空間づくり」に向けたビジョンづくりを進めておりますので、市といたしましては、対面通行化の検討はしておりません。
3	「商業環境の大変化に伴う『危機意識』が感じられない 八戸市中心市街地においては、三春屋百貨店の開店をはじめ、空き店舗が続く十三日町に象徴されるように、3期計画立案時までとは異なる厳しい環境にある。それに対し、これまでの計画同様にビジョン全体に差し迫った危機感が感じられないため危機意識を市民全体で共有する、新たなスタートとなるビジョンであって欲しい。	ご指摘のとおり、ビジョンは危機意識を掲げ、その共有化を図る内容ではありませんが、その理由としては、例えば、市民アンケートにおいて、市内に商業機能が分散する現状に不便を感じないとの一定数の声があることなどがあります。様々な意見や立場がある中で、ビジョンでは、現状に満足することなく、中期的視点をもって前向きに取り組むべき方針を示すことを重視しました。
4	ビジョン終了時(10年後)の理想像、目指すべき姿の絵が欲しい ビジョンを完了した10年後にどのようなまちの未来像となっているのか。4つの方向性とエリアごとの方向性をクリアし、長所を伸ばして短所を補強した先の姿を示して欲しい。 新聞等に投書する方々の多くは、かつての商業優先時代のまちづくりの賑わっていた過去を成功モデルと捉えている。これらとは違う物差しを示し、新たな成功の姿を示すことによって、市民理解が進むのではないか。	まちづくりの目指す方向性により具体的な未来像については、今後様々な機会に市民の皆さまの議論や検討のもと描かれることが理想と考えておりますので、市としてもそのような機会づくりを検討して参ります。

5	<p>市民、住民の関わり方の位置づけについて</p> <p>市民アンケートのまとめなどを見ると、市民・住民は必ずしも消費者やサービス享受者という受動的な立場だけではなく、やりがいを感じて中心街のまちづくりに携わりたいという意識も感じる。しかしビジョンの中では、そうした活動を拾うポイントが見つけにくい。</p>	<p>市民のまちづくりへの主体的な参加は重要であると考えます。まちづくりの目指す方向性の「4横断的なマネジメント」において、まちづくりに意欲を持つ多様な主体の参加に触れており、推進を想定する取組に、「新たな担い手、市民参加によるまちづくり」を記載しておりますが、分かりにくいとのご指摘を踏まえ、加筆いたします。</p> <p>変更内容 4まちづくりの目指す4つの方向性「4参加と横断的なマネジメント」</p>
6	<p>ウォーカブルなまちづくりは急務である</p> <p>八戸市中心街の魅力的な横丁・路地空間は誇れる地域資源と考える。しかし、中心市街地の歩車道の状況は自転車、ベビーカー、車椅子利用者は勿論、観光客等にも優しい状況では無い。また一部の横丁のトイレも来街者を受け入れる環境とは言い難い。現状では、一方通行と横丁のつくりを除いては、ウォーカブルとは言えない状況である。ウォーカブルなまちづくりは待ったなしであり、早急に進めていただきたい。</p>	<p>ご指摘の点も踏まえ、現在、市で進めている「八戸市中心街ストリートデザインビジョン事業」を中心として、ウォーカブルなまちづくりを進めて参ります。</p>
7	<p>学び・子育ての環境づくり</p> <p>他の地方都市では、国・市の補助制度を利用しない民間マンション投資も相次いでいる。八戸市においても居住人口増加をねらう方向性は正しいと考える。しかし、今後居住人口が増えてきた場合に、中心市街地活性化基本計画区域内に小中学校が存在しないことは、子育て世代に負担となる。急速な少子化、人口減少社会を踏まえて、中心市街地への学校の移設や、移設に代わる移動手段の確保など、居住人口の拡大を見据えた、学び・子育ての環境づくりの施策が必要である。あわせて、大学や専門学校のキャンパス誘致も有効と考える。</p>	<p>居住人口の拡大を見据えた学びや子育ての環境づくりは、重要な観点だと考えます。ビジョンでは具体的な事業までは記載しませんが、まちづくりの方向性の中の「人が主役のまちづくり」の説明の中に、学びや子育ての視点を加筆します。</p> <p>変更内容 4まちづくりの目指す4つの方向性 人が主役のまちづくり「まちなかを住みやすく、歩行、滞在、活動、交流、<u>子育てや学びを通して、楽しさ</u>」</p>
8	<p>中心市街地と他地域の関係、結節点としての中心市街地の重要性の強調</p> <p>八戸ポータルミュージアムはっちは、中心街の入口かつ八戸全体の入口という位置づけだったと理解するが、八戸を訪れる人は先ず中心街に行かなければ、という意識づけを交通、観光、情報発信等様々な分野の力を総合して再度示す必要があると考える。</p>	<p>公共交通の結節点であり、宿泊機能の集積などは、中心市街地の強みであり、その重要性はご指摘のとおりと考えます。今後、具体的な取組において参考にして参ります。</p>

9	<p>市の再生プロジェクトのビジョンを一つのキーワードにまとめた海外を含めた全国へのプロモーションが、ビジネスチャンスを生み、投資、人材、技術が集まる街づくりにつながるアクションになる。</p> <p>① 中心街経済形態の再構築 市の顔でもある中心街をサーキュラーエコノミーシティ（循環型経済都市）として再定義し、ビジネスチャンスを提示し、百貨店、雑貨、アート・スポーツ系、教育系、ビジネス系の専門店の誘致計画を立てる。</p> <p>② 中心街を囲む各産業地域の活性化案 中心街の機能を整えても、中央資本の参入による消費活動だけでは、地域経済の循環は正常化しない。地方都市に必要なのは消費ではなく生産力との観点から以下を提案。</p> <p>○八戸産ファッションの生産拠点を作る 例えば、デザイナーを募り、三春屋跡の数フロアにソーイングファクトリーを設け、ファストファッション等の大量生産・廃棄の廃棄資源からのアップサイクルにより、価値創造やリペア・リメイクする文化の発信地に。</p> <p>○八戸産食材・食品 災害に強く、みんなが集まる公営スマート農場 例えば、中心街の空きビル等を活用した次世代型スマート農場。日常的な食糧生産やシェアファーム、また災害時の食料確保として建物を再生。</p> <p>○八戸産電気エネルギーを活用したまちづくり 例えば、市営バスのEVバス化やAIによる交通システム構築、EVカーシェアリング環境の整備。</p> <p>○八戸産鉄資源 鉄資源のリサイクル</p> <p>○学生流出問題・教育 例えば、中心街への専門学校誘致や、市営学生寮、子ども食堂、無料塾など学生をサポートする場を作る。</p>	<p>具体的な内容も含んだインパクトのあるご提案と考えます。投資や人材、技術を集めるには、こうした大胆な発想やプロモーションも必要と考えられ、今後の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>4 「4つの方向性について」</p> <p>「1 人が主役のまちづくり」 ○来街者へ中心市街地が人中心の魅力的なエリアであることを発信する取組も推進してはどうか。</p>	<p>ご指摘の発信する取組は重要であると考えており、ビジョン概要版の作成や、その他の機会を通して取り組んで参ります。</p>

11		<p>「2 地域の資源を活かそう」</p> <p>○「公共空間」は官公庁の所有空間のニュアンスが強いため、民間低未利用地の利活用促進も期待し「オープンスペース」と表現してはどうか。</p>	<p>「オープンスペース」は通常屋外を指しますが、ここでの公共空間は公共施設など屋内も含めた意味で使用しています。また、ご指摘のとおり、官の所有に限定せず、私有地も含め公共的な使われ方が期待されるパブリックスペースとしての意味も含めています。</p>
12		<p>「3 横断的なマネジメント」</p> <p>○他分野の連携の事例として「農業」が例示されているが、具体的なイメージがあるのか。これまでの取り組みでは「文化」や「観光」の方が中心街との連携に親和性が高く今後も継続して連携すべき分野であるため、例示を変更してはどうか。</p>	<p>「農業」の例示は、マチニワで開催された「ファーマーズマルシェ」などを参考にしました。文化や観光については、方向性の「人が主役のまちづくり」や「地域の資源を活かそう」に示された、重要な連携分野であると考えております。</p>
13	「5 エリアで見るまちづくり」	<p>「食/ナイトマーケットエリアの方向性」</p> <p>○「ナイトマーケットエリア」と表現するにあたっては、夜間における魅力創出や利活用促進の方向性を示してはどうか。</p>	<p>「ナイトマーケットエリア」においては、「横丁」を核となる資源と捉えつつ、さらに、体験消費などのコンテンツにより魅力を高められると考えられることから、その点を追加記載いたします。</p> <p>変更内容 「～、市民や観光・ビジネス客が体験型コンテンツなどを楽しみながら安心してそぞろ歩きができるエリアとなることを目指します。」</p>
14		<p>「エリアマップ」</p> <p>○「主な車両交通動線」が太い矢印で表現されているが、ひと中心のまちづくりビジョンとしては違和感がある。</p> <p>○矢印ではなく「主要な街路」と表現する、若しくは歩道と車道を区別して表現するなどに変更すべきではないか。</p>	<p>下地の地図からだけでは、位置関係が明瞭でないことや、当市の車両交通の現状に詳しくない方にも、エリア内の交通動線を理解いただくため記載しております。</p>
15		<p>マチニワや花小路も広場の利活用推進エリアに加えてはどうか。</p>	<p>「マチニワ」や「花小路」はウォークブル推進エリアの中で利活用を図っていく整理としており、ご指摘の趣旨は踏まえたものと考えております。</p>
16	「6 ビジョン実現の推進体制」	<p>「人材の育成」を担う主体、もしくはその主体をマネジメントしていく主体を明記してはどうか。</p>	<p>「人材の育成」は、まちづくりにおいて重要であると捉えており、どのような人材をどのような仕組みの中で確保、育成していくかについては、ビジョンの推進体制の中でも協議し、今後検討して参ります。</p>
17		<p>「各主体・協議体は役割分担と情報共有や連携を図る」が文章として違和感がある。「各主体・協議体は連携し役割分担と情報共有を図る」という意味でよいか。</p>	<p>まずは、各主体がそれぞれの「役割」を自覚し果たすよう努めること、その上で「情報共有」し「連携」を図るものとして整理しております。</p>

18	<p>急速な高齢化、人口減少がここ数十年は避けられず、将来においても快適な生活ができる街にするためには、「街のコンパクト化」と「公共交通機関の充実」が必要であるため、周辺部に無料駐車場と、そこから低コストのシャトルバスがあればよい。</p>	<p>街のコンパクト化と公共交通機関の充実は、現在市が進めている「コンパクト&ネットワーク」の都市政策の方向性と合致すると考えます。ご提案については、今後の参考とさせていただきます。</p>
19	<p>本八戸駅⇄市庁広場・美術館⇄三日町・はっち・マチニワ⇄十三日町⇄長根公園・更上閣の人の流れを作り出したいが現状は三日町までで人の流れが止まっているため、更上閣を若者や家族連れに手軽に来てもらえるようにするか、堤町周辺でイベントを開くなどして人が来てもらうようにしたい。</p>	<p>市では、昨年10月に「更上閣ガーデンレストラントライアル」事業を実施し、キッチンカーなどに多くの集客があったところです。来年度は、美術館やはっち等と連携し、ご提案の人の流れを生み出す仕掛けづくりとなるよう取り組む予定です。</p>
20	<p>○中心街が、交通弱者にとっての買物・通院インフラであることが、議論から抜けている。三春屋閉店によりそのインフラが崩壊しつつあるので、代替となる商業施設を置くことが急務である。</p> <p>○医療についても、中心街に来る高齢者が減り、この先、医療機関の転出が懸念される。中心街から買物と医療の機能がなくなった場合、交通弱者の買物と医療のために、各コミュニティ内で（根城、小中野、吹上といった単位で）、巡回バスを走らせるなどの対応が必要になる。それよりは、中心街の買物・医療の機能を維持し、三春屋閉店以前のように、交通弱者にはバスで中心街を利用してもらう方が低コスト・高利便である。</p>	<p>中心市街地が交通弱者にとって、買物や通院の際の重要なインフラであるというご指摘は重要であると考えます。八戸市域全体のまちづくりの方向性を示す「八戸市立地適正化計画」において、中心街地区を都市機能誘導区域に位置づけ、市内各所と公共交通ネットワークで結びながら、商業施設や病院等を誘導し、その拠点性と利便性を高めることとしており、その方向性に沿ってまちづくりを進めて参ります。</p>
21	<p>八戸製品の販売拡大をめざすなら、観光客や出張者のみならず、地元民や単身赴任者に向けた総合販売所の機能が中心街に必要。</p>	<p>○観光客や出張者への八戸製品の販売施設については、ビジョン策定の際の関係団体との意見交換においても意見があり、3ページの「皆様からいただいた声」の「観光客やビジネス客の利便」として記載しました。</p> <p>○八戸製品の販売店舗は既にありますが、市民向けとしても営業時間や品揃え、PRなどの点で課題もあると考えておりますので、今後、関係機関と連携し検討して参ります。</p>
22	<p>交通弱者が歩きやすいことが重要であり、その具体的な対策として、以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字ブロックの色が歩道の色と同化していて識別できないので黄色に統一 ・現在のタイルは車椅子に大きな負荷をかけるので、アスファルト舗装又はコンクリート舗装へ ・歩道のタイルが剥がれ落ち危険なので改修を ・チーノ周辺部での勾配の改善 ・表通り以外の歩道に関しては、歩道が狭いので歩道の拡幅 ・「表通り」と「裏通り」のバス停を雨宿りできる待合所にしてほしい。 	<p>まちづくりの目指す方向性で示した「人が主役のまちづくり」には、利用しやすい公共交通や、ユニバーサルデザインに基づくまちづくりの考えも含まれており、ご提案の対策については、今後、関係機関と連携し検討して参ります。</p>
23	<p>昨年、中心街の表通りを2車線にし、歩道を広げるという様な計画を新聞で見たが、私としては、交通量に余裕があるのであれば、この際対面通行に戻し</p>	<p>現在、市では「八戸市中心街ストリートデザイン事業」において、国道340号三日町・十三日町区間を、スムーズな車両交通に配慮しつつ、歩行</p>

	でも良いのではと思う。	や滞在空間を充実させる「人中心の空間づくり」に向けたビジョンづくりを進めておりますので、市といたしましては、対面通行化の検討はしておりません。
24	中心市街地はかつて商業の中心だったが、その郊外化に伴って、中心市街地に対する市民のニーズが多様化してきている。市民の視点と中心市街地の再生、活性化を考えた際、どのような市民層をターゲットにし、どのような事業が必要になってくるのかによって、ビジョンづくりの方向性が決まってくる。将来の人口構造や地域構造を見据えた上で、ターゲットを選択する必要がある。	中心市街地に対するニーズの多様化については、今回実施した市民アンケートやヒアリング等でも明らかになっており、このことを踏まえまちづくりの方向性を整理したところです。ビジョンではターゲットを限定することはせず、幅広く取組を進めることとしますが、個別具体の取組においては、ターゲットの選択も含め検討することが必要と考えております。
25	人が主役というが、中心市街地において、市民を対象に様々な事業を展開するのは、そこに店舗や事務所を構える事業者であり、従業員である。顧客に快適な消費やサービスを提供できるかどうか、中心市街地の満足度につながり、集客から賑わいづくり、観光客の誘客にも影響してくる。中心市街地から店舗が撤退し、空洞化が広がっているのは、外的環境ばかりでなく、内的経営環境にも原因があると思う。事業経営者の経営理念と従業員への理念の浸透、つまりビジョナリーカンパニーというマネジメントの視点が見逃されている。	事業者の経営に関する考え方や取組の見直しは、中心市街地の再生に必要とのご指摘は重要であると考えます。まちづくりの方向性とした「活力ある経済と社会」の実現にも必要な観点であり、商店街組織や八戸商工会議所なども課題として共有し、取組を検討して参ります。
26	推進体制については、主役である事業者に対して、当該ビジョンやその実現のための戦略が理解され、浸透されることが重要。また、ビジョンづくりに市民が参画しているようには見えない。事後承諾ではなく、議論の当初より市民のニーズや要望を考慮する仕組みが欲しい。	今回のビジョン作りにおいて、商店街関係者との勉強会や市民アンケートを実施することで、市民並びに事業者の参画や意見を伺う機会を確保してきたところです。ビジョンを実現する手段や手法はアイデア次第で幅広くあるものと考えており、今後は、分かりやすい概要版を作成するなどして、ビジョンを共有することに努め、多様な主体による新たな取組が生まれることを期待すると共に、引き続き市民のニーズの把握に努めて参ります。

(2) 八戸市中心市街地活性化協議会の構成員からの意見内容（概要）及び市の考え方

	意見内容（概要）	市の考え方
1	<p>1.ビジョン策定にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ○策定の前提として、「中心市街地活性化」は誰のために何故必要なのか？という視点が欠けている。 ○現在の八戸市の人口や年代別構成人口からは商業への消費(=購買力)に多くは望めない。それは三春屋の閉店や小規模小売店の苦境が証明しており、民間による新たな商業施設は経済合理性上成り立たない。 ○オフィスについても賃料だけを比較すると中心市街地である必要性は見当たらないが、公共交通の要衝であることから雇用においては優位性がある。 ○他の定住自立圏中心市に見られる高等教育機関は魅力があるものの、各教育機関における特性(専攻や研究)を検討しながら、必要な教育について意見を集約する必要がある。 <p>2.住民のアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本アンケートに限ったことではないが、住民のアンケートに対する回答は無責任なものが多い。経済合理性を考えずに「自分の欲求を満たしてくれるものをできるだけタダで誰かがやってくれれば」という回答が多い。そのような意見に政策が惑わされるべきではない。 <p>3.まちづくりの目指す4つの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ビジョン策定の前提を「観光客を含めた交流・関係人口を増加させ、経済を活性化させるため」の一点とすれば、この方向性で進むべきと考える。 ○幸い、中心市街地には地元食材を使用した飲食店があること、宿泊施設が多いこと、交通の要衝であることが唯一郊外よりも長けた特徴がある。 ○他観光地と比べて足りないのは「歴史を堪能する施設」と「歴史を感じられる雰囲気(街並み)」であろうと思われることから、旧三春屋問題の解決、活用も含め検討すべきと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間事業では、経済合理性の有無が出店や退店、あるいは事業継続にあたって主要な判断基準となるため、その点を考慮したうえで、ターゲットを明確にすべきとのご指摘であると考えます。経済合理性は、様々な要因が複雑に絡み合って成立するものと考えられますが、公共的な取組を通して、中心市街地において人々が活動しやすい環境づくりを進めていくことは、経済合理性の判断に間接的にプラスに作用するアプローチであると考えます。 ○また、ご指摘の中心市街地の強みを活かした取組、観光振興の観点については、まちづくりの方向性として示した、中心街にある「食」や「横丁」、「祭り」といった地域の資源を活かす取組を通して、活力ある経済と社会づくりにつなげて参ります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○6のビジョン実現の推進体制に関して、情報共有体制の構築ということは今までも議論してきているが、進んでいるとは言い難い。議論、会議をたくさんやって、それで満足していないかと思う場面が多く、情報共有をしていくための行動を今こそ紙面に書き込む必要がある。 ○4ページの横断的なマネジメントも同様で、一向に前進していない。 	<p>ビジョン実現の推進のエンジンとなる体制を6として見える化し、まとめました。各主体間が情報共有や連携を図ると共に、中心市街地の活性化に関係する各機関が集まり協議する場として最も適しているのは、八戸市中心市街地活性化協議会であることから、当該協議会の場での情報共有に取り組みます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ここ10年くらい、中心市街地へ出かけるのは、明確な目的があるときばかり。明確な目的もなく出かけるときは、近場であればラピアやピアドゥ等のある江陽・沼館地区に向かう。普段は自動車で移動するので、駐車スペースに悩まなくていい点も、江陽・沼館地区に向か 	<p>ビジョンでは、「中心部／内丸・番町／食・ナイトマーケット／長根公園・ハナミズキ通り」の4つのウォークブル推進エリアを定め、それぞれのエリアを緩やかに接続させることで、中心街全体としての回遊性を高めていくことといたしました。今後は、この方針に沿って、具体的な取</p>

	<p>う理由の一つ。</p> <p>○「人が主役のまちづくり」は、とても良い方向性だと思う。昨今、中心市街地に商業性を望むのは難しい時代かもしれないので、「憩い」のある「歩きたくなる」街づくりをすることで、人の流れを生み出せるのではと考える。</p> <p>○本八戸駅と中心街を繋ぐ通りが、広くて緑の豊かな歩道になったら素敵で、その素敵な道を通して、休憩もできる美術館、さらに中心街へと続き、その中心街も、広い歩道で歩きやすく、低木街路樹があって癒しを感じられ、素敵なカフェやみろく横丁等の個性豊かなお店があり、散歩ができる日を楽しみにしている。</p>	<p>組を推進して参ります。</p>
4	<p>中心市街地の活性化に向けては、新幹線開業効果を持続的に繋げ、新幹線駅（八戸駅）界限と中心市街地（本八戸駅）界限との交流人口を増加させることが急務となる。そのアクセスとなる八戸線の利用促進を向上させることにより、移動時間の短縮、中心市街地エリアの駐車場不足の解消、渋滞の緩和、街歩きの推進に大きく寄与できる。</p>	<p>ご指摘のとおり、中心市街地の活性化においては、JR 八戸線やバス路線といった公共交通の利便性を高め、利用が促進されていくことが重要であると考えます。「人が主役のまちづくり」の推進を想定する取組として持続可能で利用しやすい公共交通の観点を記載しており、今後、第4期中心市街地活性化基本計画の策定過程において、関係機関と具体的な取組について協議して参ります。</p>
5	<p>歩行者や公共交通も大事だが、車も主要な移動手段であり、中心街に目を向けさせるには駐車場問題の解決が必要でないか。時間帯を決めた無料化や、3時間統一で幾らとか、今一度議論が必要ではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、来街者の多くはマイカー利用であることから、マイカー利用者の利便性を高める取組を検討しております。このことは、まちづくりの目指す方向性の「活力ある経済と社会」の推進を想定する取組の中で、「デジタル技術を活用した情報発信、駐車場や決済サービスの構築による利用者利便性の向上」として記載しました。</p>
6	<p>理念に加え、それを現実化する体制が必要。若手住民による意見や活動を取り入れることが必要。</p>	<p>若手住民の意見や活動を取り入れることは重要であり、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
7	<p>中心市街地は商業者・官庁・文化施設等それだけで良いのだろうか。コンパクトシティとして、周辺部から中心市街地の近辺に移住、転居が進めば、子育て世代が歩いて楽しいウォークブルタウンと高齢者対策の両方が可能に。</p>	<p>現在市が進めている「コンパクト&ネットワーク」の都市政策に沿って、取組を進めて参ります。</p>
8	<p>4つの方向性を進めるにあたってイニシアチブを取ってくれる母体ははっきりしない。</p>	<p>ビジョンの実現には、市民や民間事業者など多様な主体の参加と連携が必要であると考えており、まちづくりの方向性として「横断的なマネジメント」を、また推進のエンジンとして推進体制を整理しました。</p>
9	<p>中心市街地の活性化に欠かせないエリアとして売市第三地区がある。河川の暗渠化や道路整備などの各種整備を望む。</p>	<p>売市第三地区については、今後の整備が中心市街地の活性化にも大いに寄与するものと考えており、ビジョンでも「隣接するエリアの動き」として記載いたしました。今後、事業検討の進捗に併せて中心市街地活性化基本計画との関係を整理して参ります。</p>
10	<p>市の新年度の機構改革において、ビジョン実現に向けた推進体制が強化構築されるが、学術関係者の知見も必要で、その対応をどう考えるのか。</p>	<p>ビジョンの推進体制には、高等教育機関は含まれておりませんが、専門的知識、実証的データなど学識経験者の知見と協力は必要であり、推進体制の各主体においても、学識経験者に参加協力をいただいております。</p>

11	<p>○人口減少や少子高齢化、若者の都市部流出が進む中、地域住民にとって必要不可欠なサービスを持続可能なものにしていくことが重要。そのためには地方公共団体、地域組織、地域外の企業等が有機且つ広域的に連携していくことが必要だと思われる。</p> <p>○八戸市では、これまでも先進的な取組を進めており、計画的に先進的な賑わいを生み出してきた。東北地域の中でも、市民(特に高齢者)の街中回遊が多く見られ、基幹交通であるバスの利便性を高めてきた。</p> <p>○まちづくりビジョン 2023 では、更なる関係者との連携による「まちづくりの目指す4つの方向性」が示された。点を線で繋ぎ、さらに面(エリア)においてそれぞれの特徴を引き出している。</p> <p>○特に「地域資源の活用」「横断的なマネジメント」は持続可能なまちづくりに不可欠であり、人の関わりによる地域資源の磨き上げや再定義は東北及び全国のモデル地域になり得ると感じる。</p> <p>○全世代が交流出来る拠点があることからウォークアブルとの親和性も高い。既存の空地などのストック(官民の土地・施設など)を自由に活用できる空間に整備することで、他業種間の連携によるイノベーションが起きるのではないかと感じる。</p> <p>○八戸市の魅力を引き継ぎつつ、多様な世代が集う新たなまちづくりに大いに期待する。</p>	<p>今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
12	<p>所属する団体内では、まちづくりの目指す4つの方向性やビジョン実現の推進体制への理解が広まっていない。今回、八戸商工会議所では「はちのへ活性化プロジェクト中心街委員会」が設置されることもあり、ビジョン実現の推進体制に対する連携を強化していくため、これらについての勉強会(研修会)の開催が必要と思われる。</p>	<p>ビジョンを実現する手段や手法はアイデア次第で幅広くあるものと考えており、分かりやすい概要版の作成などを通じて多様な主体とビジョンを共有することが必要と考えております。また、ビジョンに係る勉強会開催などのニーズには個別に対応して参ります。</p>